



あの日の光景が戻ったかのように…

田んぼリンク

復活

REVIVAL



あの瞬間、すべての想いが実を結んだ。
これを奇跡と呼ばずに何と呼べばよいのだろう。
大人を突き動かす原動力は、
今も昔も変わらない、子どもたちの純粋な笑顔だった。

▽雪の積もった田んぼリンクの上で遊ぶ子どもたち。
この時、誰もがスケートはできないものだと思っていた。



悔しさを感じた朝

1月31日、田んぼリンク復活祭の朝。数日前から解け出した氷、そして前日に降り積もった雪を見て大内さんは、「やはり今日の復活は無理か」と、この日の田んぼリンク開放を断念していた。

予定していた長野オリンピック金メダリスト清水宏保さんのスケート教室も場所を室内に移し、行われることになった。

しかし、復活祭の前に、子どもたちがぞくぞくと集まり、雪の積もった田んぼリンクの上を長くつで楽しそうに走り回る姿を見て、「あと数日あれば…」と、大内さんは悔しさをにじませていた。



▲子どもたちがバランスをとるために使っていた「椅子スケート」。

涙が出そう。 佐藤 風那 さん (山木屋・15歳)

このリンクのデコボコした感じは、あの「田んぼリンク」そのものです。またこの場所で滑れるなんて…。長ぐつで滑っていたことや、友だちとの思い出が走馬灯のようによみがえってきます。涙が出てきそうです。



感無量 川俣スケートクラブ副会長 大内 秀一 さん

みんなの手でこの「田んぼリンク」を復活できたことを誇りに思います。寒い中での作業は、正直大変でした。でも、子どもたちの笑顔がすべてを語っているでしょう。あの笑顔がすべてですよ。



想いは奇跡を生んだ

オープニングイベントが終わり清水さんの教室が始まるころ、大内さんの思いをよく知る一人のスタッフが、「子どもたちが滑れるような固い場所があるか探してみました。リンクに入っていないですか」と大内さんに聞き、大内さんは「どうぞ」と答えた。

スタッフは、日かげになっている田んぼリンクの東側の雪をかいてみた。「いけるかもしれない」スタッフは雪かきを続けた。

すると、一人、また一人と雪かきをする人が現れ、いつの間にかスタッフ全員が雪かきをしていた。

「子どもたちに、田んぼリンクの楽しさを味あわせてあげたい」スタッフ全員の上に浮かぶのは、子どもたちの純粋な笑顔だった。

そして、みんなの手で、小さいながらも子どもたちが滑れる大きさの、「特設田んぼリンク」が急ぎよ完成したのだ。

夢が伝わった瞬間だった。大内さんの諦めない気持ちは「田んぼリンク」を復活させたのだ。

田んぼリンク復活



△諦めず雪かき作業を続けるスタッフや関係者。奇跡の瞬間は刻一刻と迫っていた。

「田んぼリンクで滑れるぞ！」突如の吉報に、室内で清水さんのスケート教室に参加していた子どもたちは、大きな歓声をあげた。

スケート靴に足を入れ、想いのこもった田んぼリンクに踏み出した子どもたちの顔には、すぐに満面の笑みが広がった。

「これがあの田んぼリンク！」と、子どもたちは、時が過ぎるのを忘れて以前のように純粋な笑顔でスケートに夢中になった。

この冬、間違いなく、山木屋の「田んぼリンク」は復活した。